

無誤 局印



三五

昭和二十一年八月

四月十六日

第六六五八

作

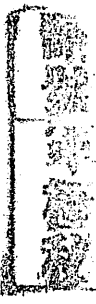
△

緊急

東京

陸軍省

東京通信隊之無線電機部・無線電機部



機密第一五一〇四五番

陸 南四方面總隊參謀長

通 軍令部次長

贊機密第一〇九一二三〇番電送

北部一七ノ地区に於て無線電機機密を以て及んで根拠地隊隊員に
伴て中央ノノ部隊ノ下ニ實施を以て及んでニノノ部隊二十三特別機
據地隊第二十四根拠地隊ノ改編實施を以て及んで本場合ハ貴部ノ通取許

通七四九六 日三(八八八四四)三一

海 軍

600

大正四年四月

尙書四商榷總局令部ノ一ノ部ナリト移轉ハ情流變化ニ由リ以テ國土
ヲソノ必要ナキ者ヲ本國ニテリ念ヲ爲ス

第十部

海

軍

局長

課長

局員

福川

海防

第十課

親展

九一五

受領一七三六

丁二〇二〇

電〇六七六四

作

作

倉橋・神

第一海上護衛隊

海上護衛隊司令部・聯合艦隊司令部・第二南遣艦隊司令部・第二艦隊司令部・海防二〇

暗號軍極秘

機密第一五一四〇一番電

一倉橋ヲ七二船團部隊ヨリ除ク

二倉橋ハ準備出京次第佐世保發七五船團ニ合同スベシ船團正午位

三發十六日北緯一七度一五分東經一一六度二〇分十七日北緯一三度

一〇分東經一一六度四〇分十八日北緯一一度一五分東經一一三度

五〇分十九日北緯〇九度五〇分東經一四六度四五分其ノ他第八發

通七五七五

留日(一三五二〇船)高雄

海

軍

601

海軍省 海軍部 海軍第一師 二六一〇 番電送リ

三、第一師作戦警戒ノ令アラバ 神鷹艦長ハ 倉橋ヲ 指揮シ 艦直船團ヨリ
分離シ 第二艦隊ニ 合同 同司令長官ノ 指揮下ニ 入ラシメラルル 豫定
ナリ。

第十信 課

海

馬

局長
課長
局員

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

作

親
一五
受傳一七四七
開始一八〇〇
譯丁一八三〇
電〇六七一二
作・△

- 大東（吳瀬）・海防六・海防九・海防一六
- 海上護衛艦隊・支那方面艦隊口・聯合艦隊口・第十三船團運統下（長白山丸）
- 第一海上護衛隊

陸海軍機密

機密第一五一五五〇番

「鴨綠江」一（全部）ノ發令アラバ大東特海防艦六特海防艦一六特海防艦九八連ニ上海ニ回航ノ上支那方面艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケシメラルル豫定。

（註 二重橋内ニFトモ解セラル）

通七五八四 ルB（一三五二〇四）高雄

海軍

602

作

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

第十課

作

親展

一

一

一九三〇年

聯合國軍

聯合國軍

聯合國軍

聯合國軍

聯合國軍

聯合國軍

聯合國軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

603

作

局長

課長

局員

福地

...

...

...

第十課

作戦要旨

九一五

一五

受丁始

九九八
五二四
〇五九

電〇六七二九

作・△

無線機所用共通符號

● 聯合艦隊各口、南東方面艦隊

● 長・海上機橋艦口、支那方面艦隊口、各級各艦

機密第一

機密第一 一五一六五五番電

聯合艦隊命令作第三〇五號

一、敵ハ大舉「ハルマヘラ」方面及「バラオ」方面ニ來襲セシ

二、南西方面部隊ハ全力ヲ奮ツテ強襲戦ナル作戦ヲ實施以テ敵ノ進攻

企圖ヲ破攘スベシ

三、先遣部隊ハ別命ニ依リ敵來攻部隊ヲ攻撃スベシ

四、右以外ノ部隊ハ敵接近部隊ノ來襲ニ對スル警戒ヲ嚴シツツ精力

戦力ヲ充實戰備ヲ復讐スベシ。

通七六二四

長一日ヲ十四(日)A.P.P

海

軍

604

親展



九一五
一六

受借
了始
〇三〇〇
三〇五

電〇六九四〇 作 △

第十信課

階級軍務

機密第一五七〇七番電

書 應・昭 南・海軍提

第一海上護衛隊

大海軍一部・海上護衛隊中・聯合艦隊司令部・第二艦隊司令部
第一艦隊司令部・第五艦隊司令部・長白山丸

一七四四船團高雄沖通過時（十八日早朝）接獲ハ船團ヨリ分離高雄
同航急速補給スベシ警備隊入港時以後同艦長ハ昭南提督ヲ指揮
スベシ統一艦作隊警戒ノ令アテハ第二艦隊ニ合同同司令長官ノ指
揮下ニ入ルベシ
二昭南提督ハミ一丸艦船團中高雄行船船ヲ途中分離十八日中ニ高雄
ニ回航スベシ

通七六六六

昭南（四〇四五船）高雄

海軍

605



局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

九一五

受了

九九二五八〇

〇六七三二

作・△

特別緊急

二六根

- 聯合艦隊口、南西方面艦隊各口
- 東通、一航空艦隊口、二三航隊

暗號

機密第一五七〇七番

一五二〇モロ夕イ島南端「サバタイ」ニ上陸「ワタタタ」ノ方一〇針ノ開始ハルマヘテ島ニハ未ダ上陸セズ。

606

通七六五八

於八一八三六五〇廿一

海軍

人

九一五

受領三三三三〇

丁二三三五五

〇六九三八

作
本

第十信

傍

二三根六六下派遣隊

第四南進製鐵隊

機密第一五一九二五番電

菱 〇 長官

宛 輝部隊長

「ハルマヘラ」及「P」方面ノ敵情ニ鑑ミ南西方面部隊及潜水部隊ヲシテ全力ヲ擧グ同方面友軍ヲ支援其ノ兵力特ニ航空兵力一第一航空隊ニ集中シテ貴方ノ御期待ニ副ヒ得ザルハ幸多ク候トス
在「ハル」兵團ノ健闘ヲ祈ル。

通七七三九

翌日(一日)

海軍

607

局長

局長
局長
局長
局長

局長
局長

局長

九一六

受信
譯始
〇〇一四五

譯了
〇四〇〇
電
〇六九四二

作
△

親展

傍

第二航空艦隊司令部（高雄空基地）

鹿屋空基地

機密第一五二一四八番電

聯合艦隊參謀長

聯合艦隊電令第四〇五號ニ依ル第二回攻撃部隊綜合教練日程ニ拘ラズ貴司令部ノ爾後行動ハ其ノ重要性ニ鑑ミ豫定ノ通實施セラレ第一期教練ニ於テハ直接指導ハ攻撃部隊指揮官チシテ當ラシムルコトニ計畫サレ度迫テ捷一號作戰ニ備ヘ作戰準備ノ強力ナル現地指導ト且ハ重要戰機ニ於ケル中樞航空部隊ノ轉進ガ禍因ヲナセル累次ノ戰例トモ併テ當分貴司令部高雄ニ所在セラレ度内案アル處貴見承知致度。

通七七九九
ロ三B
（B）GF口

海軍

608

作

九一六

一八〇七
一八五〇

一九二〇

〇七二三四

△作・水路

親展

緊急

● 船 船

● 水路 部 長・北ボルネオ守備隊・南方航空隊

機密第一六〇九三七番

本館

南洋方面水陸告発（九月十五日）

水中隊機物設備ス料ニ「北」ボルネオ「ブルネイ」灣左ノ海面ニ於ケル船船ノ航行並ニ漁業採藻等水中作業禁止「ペロング」岩ヲ通ズル三〇〇度線、「ラスカンベサイル」ヲ通ズル三〇〇度線「ブキツトカラム」(八四)ヲ通ズル三〇〇度線スマトラ「ペロング」岩ノ三〇〇度線ヲ通ズル三〇〇度線ニテ剛マレタル海面。

通八一五六

天日 (八八八四四)三一放

海軍

赤坂

第十信

610



親展一七
作取緊急

受領一三四〇
一三二〇
電〇七五五〇
作部

先遣部隊

聯合
先遣部隊
東通第一種・第二種・第三種・三一號・大海

海軍

機密第一七〇九三〇番

先遣部隊電令作第一六一號

三十四潜水隊入左ノ哨區就中機宜行動敵艦船ヲ攻撃爾後實施ス

伊羅百七十七潛北緯七度以北東經一三二度以西
四度以北
以東東經一三二度以東東經四十七度以北緯四度以南東經一三二度
以東東經四十一度以北緯七度以南四度以西東經一三二度以西
潛北緯四度以南東經一三二度以西

通八五五〇 月二日夕十四 (五二九五)

7°N
132°E
海軍

第十部隊

61



緊急

陸海一六四〇

陸一八三〇 電〇七六五七

△作

●聯合艦隊司令部

●高雄鎮守艦隊

陸海軍省機密第一六一三三五番電

發 第二航空艦隊參謀長

宛 聯合艦隊參謀長

貴機密第一五二一四八番電迄

成ルルヲ以テ、綜合訓練ヲ指導實施致度ニ付、陸海軍司令部ハ概テ決定シ
(三十二年三月) 陸海軍復隊改メ、高雄進出ノコトニ決意
尙殘一編隊戰隊備入爲總備入一部ヲ高雄ニ殘留セラルルヲ決定ス。

通八六六五

呂三日(十三五二〇時)高雄

海軍

第十信原

612

九一八
八七
〇〇一〇一〇
〇九
了〇一四五
〇七八四三

人軍一
事務令

局長
局長
局長

局員

軍令部一課 六四南道建設各口

機密第一七一四五二番

南道方面建設部長

漢口ハ三五〇一ハ目下「ケンダリ」ニ在リテ「アンボシ」方面ニ對スル

橋給線送ノ統制ニ任ジ在リシ所任務ノ關係上第二南道建設司令部附トス

ルヲ便トシ兼テ同方面ニ於ケル職上係ノ統一指揮ニ任ゼシムヲ可トス

ルトノ第二南道建設司令部附南道建設合致ノ意見ナリ第百二十五編建設ヲ

除附屬ヲ第二南道建設司令部附ニ任命方取計ハレ度

通八八五六 局一〇八八八編一三一通

614

九一八

受信 三〇三二
開始 三〇三五

三二四〇 電〇八二五三 人 事

緊急親展

● 二十二根地敷

● 人事局

● 二 航空 艦 隊 戸

暗號 極 秘

機密 第一八〇八四〇 香電

題目ハサ九三九ニ警司令ニケ月前ヨリ買アトニ一乗機性調節レ
ウマチスニ才表調基シク戦地勤務不適至急交代セシメラレ度。

海軍二六八 三〇一八三六七

軍

(花時納)

615

九
九八 受信二一五〇〇 譯了 一〇三〇 電〇八四二六九 情特

親展扱

軍司令部第三部長

在スエトデン武官 (C. HOOKHOLM)

機密第四六二番電 二分ノ二三 一六一一六〇〇

宛 軍司令部第三部長 軍務局長

通報 在獨大使館附武官

一、フィンランド情勢ニ關シ在フィンランド我ガ陸軍武官輔佐官ヨリ聽取
セルトコロハ概ネ前電卑見ト同一ニシテ即チ北部獨軍ハ實際上二週間
ノ短期日ヲ以テシテハ撤退不可能ナルノミナラズ蘇軍總エズ獨軍ノ撤
退ヲ妨害シアリ又獨軍モニツケル地帯確保ノ爲撤退ノ意志ナキモノ
如クフィンランド側ニ於テハ大統領始メ今後如何ニスベキヤニ關シテ
ハ全ク無策只セメテ現在ノ半分位ノ國土ニ留少セラレ共何カ力獨立
國トシテ存在スルコトヲ希望シアルニ過ギズ結局ハ今後蘇聯邦ノ爲ス

九三〇八

II B

616

三、所見

ガ儘ニ從フヨリ外ナカルベシト

蘇聯邦ガ二週間以内ニ獨軍撤退ヲ要求セルコトハ一面寛大ナルガ如キ
モ事實ハ自己側ノ對フィンランド休戰準備ヲ整フル餘裕ヲ得ンガ爲ニ
過キズ同期間内ニ獨軍撤退ノ不可能ナルヲ知ツテノ要求ナルコトハ先
ヅ明ニシテ將來之カ口實トシテフィンランドヲ壓迫シ自國軍隊ヲ駐屯
事實上之ヲ占領セントスル下心ニ基クモノト考ヘラルモスコトニ於ケ
ル休戰會議ハ未ダ何等開始セラレ居ラズ蘇聯邦ノ條件ニ關シテハ一切不
明ナルモ或ハ表面比較的寛大ナル條件ヲ以テ偽購シ前記ノ如キ口實ヲ
以テ自國軍ヲ進入又ハ現政府ヲ壓迫シ共產黨政府ヲ樹立スル等將來漸
次フィンランドヲ蘇聯邦ニ併合センコトヲ畫策スル公算極メテ大ナル
ベシト判斷ス。



作戰特別緊急

九一九 受信 開始 一三三二九 調了 一三三五 電 〇八四四八 作・△

● 沖 繩 古 空

● 海上護衛線口・七屋空基地・大島防備隊・佐 領
第一海上護衛隊・迅 録・燕

機密 第一九一一〇五番電

第四海上護衛隊司令官

電令 第九〇號

第三掃蕩隊ハ全力ヲ以テ北緯二七度二五分東經一二七度〇分東ニ於
テ迅録ヲ雷撃セル敵潛ヲ撃滅スベシ。

運九六一七 〇八 (E) 位通

海軍

617

第十卷

九一九 受信一九二七

譯了一九五〇 電〇八五六六

一軍令
人事備務

● 東 通

● 二 四 通

● 二 一 通。三 一 通

機密第一九一一四七番電

機密第一九一一四七番電

發 四区 參謀長

宛 人事局長

通報 第二南遣艦隊參謀長・南西方面艦隊參謀長・軍令部第一部長
南西方面艦隊機密第一七一四五二番電ニ依ル溪口(三五〇)ノ件ハ
諸般ノ事情上四区司令部附兼二区司令部附ノヨトニ取計ハレ度。

通九七六五

留電(一八三六五機)二一通

海 軍

第十卷

至急

九一九

受信一四二〇八

譯了一五〇〇 電〇八四七七

人事

人事局

機密第一九一二一五番電

發 第二南遣艦隊參謀長

第二十二特別根據地除機密第一八一八四〇番電關聯

重要事項 現戰局 鑑 第二警備隊司令 現役 適任者 (中

少佐ニテ可) 任命方配慮ヲ得度

通九六三四

留〇八一八三六七五〇(二二通

海軍

619

(花崎節)

3



九一九

受信一七〇七

譯了一七二五

電〇八五三三

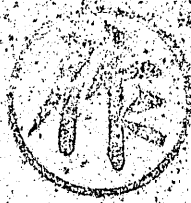
作

緊急



常

瀬



● 迅鯨・佐鎮・第四海上護衛隊▷・海威・鷹島
● 海上護衛總口・大島防備隊・沖繩方面根▷・一八戰隊▷

機密第一九一四二〇番電



大島灣口ヨリ迅鯨ノ現場ニ向ケ第五十八號驅潛艇ヲ急派セリ。

通九七〇九
ル一日ヲ八(日)

620

作

九一九

受信二二二二
開始二二二二

了二二二四五

電〇八六五六

作

△

待望

待望

迅

綜

待望

大 長 資 佐 吳 各 隊 四 三 吳 潛 水 戰 隊

沖 繩 根

海軍極秘

機密第一〇一七〇一八番電

621

一、其ノ後乗員ニテ爲シ得ル處置ハ概ネ壽シタルモ航行及動力使用不
能ノ爲此レ以上ノ處置困難ナリ現在ノ浸水量一七〇〇噸噸噸備浮力
四五〇〇噸ニシテ今後浸水ノ虞レアル箇所約一〇〇〇噸ヲ見越ス
モ今ノ所沈没ヲ免カルル見込ナリ尙成ルベク速ニ動力船ノ派遣ヲ
希望ス

二、今夜二一〇〇噸救助艇海威ノ來着ヲ待テ曳航ニテ一先ツ沖繩高嶺
底磁地ニ就カントス
通九八九三 留日 (B) 佐世保

(H)

三、便乘者中下士官兵行方不明三名揚行兵器荷ニハ、被害ナシ
四、小官ノ迂濶ニ依リ、艦ヲ毀損シ犠牲者ヲ出シ任務ヲ滯滞セシメ、誠ニ
申請ナシ。

傷

局長 職員

九二〇 受給 〇〇二二三 〇丁 〇三二 〇八七九四 〇

保安要務

● 南支那海方面所在船隻所

● 支那方面 高橋 警備所 一 根 上海 警備所

● 後番 一九二〇二八番

陸方潜水艦二十日自現明南東口より台湾海峡より外放白飯色味方
機刺標示水上水中共油少濁流正午位置二十一日 〇四 〇六 〇一 〇五 〇
五 〇七三 〇 一 〇七四 〇 一 〇五 〇 一 一 〇三 〇 一 四 〇五 〇 一 一
〇四五 一 一六三 〇 一 一〇三 〇 一 八 一八 一 一 一五五 一 一九四二 〇
一 一四 〇四 一 二一 〇六 一 一五 〇八 二十九日 二三五 〇 一 一八 〇八
二十四日以後發回潜航

一〇〇〇三 天 〇九 一六 〇五 〇一 〇

0922

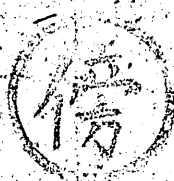
0923

親展
緊急

九二〇
受信一〇四五

譯了一一五〇
電〇八八九七
作・△

大島防備隊



第一拓南丸

迅鯨・佐銀・長鯨・海威
沖繩部隊・驅潛五八・第四海上護衛隊

機密第二〇〇五四二番電



第一拓南丸、海威現場着迄瀬底ニ向ケ迅鯨ヲ曳航スベシ
電令第六八號前電ヲ取消。

通一〇一三一
留一〇七八（B）佐世保

623

作

長	九	二	三	四	五	六	七	八	九
長	九	二	三	四	五	六	七	八	九
A	L	K
...
...
...
...
...
...
...
...

一三 電〇八九五二 作 △

● 第四海上護衛隊P・大塚・佐世保港務部・曾文丸

● 大海一部・佐藤護務部・海上護衛線口・沖繩送・吳誠
迅鯨・佐防・佐藤・立神

機務第二〇一一四二番電

佐領信電令作第一〇七號

一、佐世保海軍航空隊司令ハ九月二十日佐世保海軍航空隊飛行便一迅鯨

機務調査ノ連絡官一名搭乗シテ設定スベシ

二、曾文丸ハ迅鯨救難用資材搭載ノ上速ニセソコニ回航スベシ

三、佐世保港務部長ハ立脚ヲシテ成ルヘク速ニ七底ニ回航迅鯨ノ救難

四、第四海上護衛隊司令官ハ迅鯨救難ニ關シ諒解スベシ。

通一〇三二五 才八一 日 佐世保 海軍

624

九

三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九
三	長	丁	長	三	九	三	九

東 通

機密第二一七二八番電

發 第三南遣艦隊參謀長

宛 大本營海軍參謀部第一部長

九月上旬第二十二魚雷艇隊所屬第四一八號魚雷艇へ使用可能、第四二

〇號魚雷艇へ使用不能、ハ共ニバラオニアリ、第二十二魚雷艇隊及同

基地ノ狀況ハ第三南遣艦隊機密第一八一五—三番電ノ通ナリ

尙並時在バラオ人員ハ魚雷艇少ナキ爲大發裝艇隊トシテ訓練シツツア

リタリ。

第一〇九八六

四二五、二〇二六五、三一、海

軍

625

第十師團



局長	九
一等	三
A	受
B	了始信
	〇〇〇
	〇七三
	〇五七
	電
	〇〇二
	二二四
	〇九八

第一海上護衛隊

作・參本

次長・海上護衛總口・南西方面護衛隊口
 參謀次長・船舶輸送司令部（兵隊副官氣付）
 第一通信隊・第二六管備隊

機密 第二二二二一〇五番電 三分ノ二二三

第一海上護衛隊司令官

報 歐總參謀長

ニラ方面空襲ハ被害甚大ナルノミナラズ今後モ尙繼續スルノ算アリ
 船三船團ノ運航中絶シ高雄ハ益々滞船多クナルヲ免レズ 然モ後者モ
 空襲襲撃算大ナリ 依ツテ此ノ際被害極減ニ付 特ト熟慮圖行チ

一一一
 一一一
 六六六
 八二二
 二四二

627

之ガ對策ハ荷ノ輕減ト滯船ヲ少クスルニアリ 高雄ニ滯船中一五八艘^隻中
 マニラ行三二隻一ノ部隊及機材ハ約半部ヲ同地ニ陸揚シ置き船舶ハマニ
 ラ碇泊ニ日程度ニテ出港高雄ニ回航シ機動的ニ逐次輸送スル 下共ニ小
 型船ヲ利用スルヲ大局上有利ト認メ同方作戰上ヨリモ同一結論ニ達ス
 至急陸軍側ト連絡シ善處アリ度ト返

作

一九九二二三

作戰緊急

● 第一海上護衛隊

● 大海參一部(東通)・運輸通信長官(東通)
● 船舶司令部(吳通)・南西方面艦隊(高登)

● 海上護衛總司令部

電一〇七八九 作・△・運通省

機密第二三二二二〇番電

機密第二三二二二〇番電

一R B 機密第二三二二二〇番電

當方意見ハ更ニ中央トモ連絡後電スルモ臺灣方面ニ對スル敵機動部隊及在支空軍ノ顧慮特ニ大ナル此ノ際差當リ高雄基隆方面掃船ヲ減ズルコトニ努ムルト共ニ機ヲ失ヒズ之等掃船ヲ比島ニ進出セシムルノ要アリト認ム

一 終

通二六三五

呂三日

海軍

629

九五
九五
九五

局長	課長	局長	課長	局長	課長
局長	課長	局長	課長	局長	課長
局長	課長	局長	課長	局長	課長
局長	課長	局長	課長	局長	課長
局長	課長	局長	課長	局長	課長
局長	課長	局長	課長	局長	課長

東京
第三
機密第二四一八五二番電

四七
省副
司令
軍務
人事

發 第四南遣艦隊參謀長

宛 軍務局長 人事局長

通報 南西方面艦隊參謀長 第四艦隊司令部 大海參二部長

第十九軍參謀長ヨリ左ノ照會アリ之ヲ召集實施ニ關シ中央ノ了解程

度御通知ヲ得度

昭和十九年陸軍密電五六〇一六八七ニ依ル陸軍作戰地域内帝國臣民
中陸軍兵籍ノ歸休兵豫備役補充兵役國民兵役ニ在ル者ハ兵役法施行

通一二七八一 呂一四一七四六五〇一三一通 海 軍

令第一一八條ニ依リ召集ヲ實施セラルル等ニ付海軍關係ニ在留邦人
ヲ含ム該當者調査シ通報アリ度。

第十信

海

軍

急電

局長

緊急

東通

聯合艦隊口・吳鎮・二航空艦隊口・二一航戰

高雄

航空基地

政備力

作

機密第二五〇九三八番電

發 二△參謀長

宛 大本營海軍參謀部第一部長・戰力補給部長・艦政本部補務部長

通報 兵備局長

兵力

捷・號作戰用當艦隊展開豫定ノ臺灣基地中對空砲火零ノモノ及貧弱ナルモノアルニ付着當リ左ノ通緊急増配方取計ハレ度

十二纏高知砲二十五耗機銃ノ順ナリ

恒春一〇・一二時仁一二・三六紅毛後備各八・三六宛 仁徳大岡山

各〇・三六宛 宜蘭花蓮港臺東各二一・二二宛

通一二九三一ル一ラ八八一三五二五〇高雄

631

人

人書局長

九二六

高長

●

● 第二課長

●

●

●

●

●

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

九二六

受領〇〇三二〇八

電一〇五〇〇 電一〇六

命令

● 東京通信隊

● 聯合艦隊司令部・四南連隊司令部

機密第二五二八二七番電

發 南西方面艦隊參謀長

宛 大海參一部長 人專局長

第二八根據地隊ノ現状ニ鑑ミ目下「オサダ」方面ニアリテ北「セ」
ベ「シ」地區ノ指揮ヲ執リツツアルニ八根據地隊^{參謀長}連進ハ命課委員取計
スル度。

第一三三三二一 四二二〇(七四六五〇)三一七

133

315 後



東京海軍通信隊
吳通信隊

機密 第二五一五〇二番電

三一五設營隊長

施本總務部長

吳施設部長

九月二〇日マニラ上陸、セブ島進出準備中二一日〇九三〇敵機來襲兵
舎附近三發被彈、戦死下士官八名（内六技術科）兵一八一名、戦傷死
兵一名、戦死下士官一名兵二七名ノ損害ヲ蒙リタリ

兵器彈藥大部分焼失、貨物自動車五臺大破、大發一隻小破、潜水器全

部火藥一〇屯雜品若干食糧酒保品四割治療品少量亡失

セブ島進出ヲ變更マニラ附近ノ施設ヲ行フ

詳細書類ヲ報告ス。

632

作

親展扱

九二六
A
B
譯始〇〇四三〇
譯了〇六三〇
電一六三〇
水路作
△

東京通信隊

三一通信隊

聯合艦隊口・吳鎮・二艦隊口・二二通(ヌラバヤ)

機密第二五八四二番電



發 日高中尉 勝力航海士

宛 大臣 總長 G K P 司令長官旗艦

通報 南方航路部 水路部

勝力戰鬥編報 日高 五〇一〇

九月二十一日午後二時發 一三〇北緯一四度四〇分 東經一二〇度

〇分ニ於テ敵戰鬥機約六〇機ヲ銃爆撃ヲ受ク戰果撃破一機 被害重

傷二名

通一三三〇一 日二B(七四六五K)三一通

634

二二三〇マニラノ約八〇哩ニ於テ敵潜ノ攻撃ヲ受ケ被雷（一）
 沈ス敵潜ハ攻撃後浮上照射竝ニ機銃射撃ヲチス
 三 生存者中尉日高昇（ヨヨー〇二八六）下士官兵二六名 測量班一
 五組 總員（ルバン）島ニ上陸漸次「マニラ」ニ集結中・



九二六

受備 始一九二六

一九三〇

電二一八五二

作

重
倉

現
表
反

第三十航空基地

第三航空隊
第一海上航空隊
第十八航空隊
高雄警備府
九〇一空・九五三空

九五四空・九〇一空
南支飛行隊
馬公根

機密第二六〇九二三番電

暗
號

二戰隊 二區 遙遠四 〇七五三ノ位置 (北緯二二度〇〇分東經一

一八度四五分) 針路二四〇度 速力一八節

通一三六五四

才八 (八八八四〇)三一放

海軍

135

人

九二六 受信 二〇〇四〇〇 譯了 二二一五 電一 九五三 特略
譯始 二〇〇四〇〇

至急親展

● 南西方面艦隊口

● 聯合艦隊 南遣艦隊口

機密第二六一七〇四番電

發 二艦隊參謀長

聯合艦隊司令部及貴司令部ト「マニラ」ニ於テ打合セノ爲左ノ豫
定ヲ以テ先任參謀派遣致度ニ付航空便設定方取計ヲ得度十月一日
又ハ二日昭南發二日「マニラ」ヲ十月四日「マニラ」發。

636

通一三六六八 スB

六二三五 EC

十通

海

第電
十信
録

21

親至急展

受信開始 〇九五〇八

譯了 一一二二一 電 一一二一三一

一令・軍務
人事・兵備

吳	天	專	局	王	勇	第	一	空	基	地
長	人	長	長	部	部	部	部	部	部	部
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K

機密第二六二〇〇四番電

發 第一航空艦隊參謀長

比島空ハ擔當基地極メテ多數（三四）ナルニモ拘ラズ人員特ニ幹部
 級要員ノ不足甚シク任務遂行不可解ノ實情ニ至ル速ニ左ノ要員補充
 方特ニ配慮ヲ得度

- 一 航空關係中佐一名 中少佐二名 少佐大尉六名 大尉三名
- 二 特務士官（少佐 大尉）二名

通 一三九七四

呂 IC (I 四九三〇 KC) 三一 通

海

軍

637

第十號

三、通信科少尉 兵曹長五名

四、醫務科士官一二名

下士官兵ノ分ハ書類後送

中少尉 六

兵曹長 九一

士官 一三五

兵 一三五

新二階階
輸送手配中

第十信課

海

軍

人

九二八

受署一六三五

降一九五五

一三七〇三

作・△

至急

● 大津港一部・支那方面艦隊中

● 上海根拠・二一航隊・二五六機・二航隊・守
● 厦門根拠・二一航隊・二五六機・二航隊・守
● 南支那第二飛行隊・南支那飛行隊

要電第二七二一〇三番電

領事官作電 閣議報第一號

一 第一護衛隊（六隻）ハ乙支隊離陸船（六隻）ヲ護衛シ二四日ハ北

一 方面ヲ出陣途途通二六日夜半ハ上ノ神泊地ニ進入乙支隊主力ノ

奇襲上陸ハ二七日〇四五〇成功揚陸作業ハ豫定ニ進捗中

三 護衛部隊指揮官ハ二六日夜馬祖島着二七日〇八〇〇ト入ルニ

進出セリ

通一四五三一

留日ヲ八（一三五二〇）商電

海

軍

639

局長

課長

局員



工勇

電信課

九二八

受信 一三四〇〇
譯始 一四〇〇

譯了 一四一五 電 一二五八七

人事

至

急

人事局

總無線艦所用共通符號

機密第二八一三四一 番電

發 第三航空艦隊參謀長

高田 (二七六五) 高雄航空基地

機密第一九一七四一 番電 通り 戦地勤務不添道ト認△當方申繼終了

セリ如何取計スベキヤ。

花 2作 44

(通報 201fg)

有人事局

貴校志 二八一三二一 (一五七五)

宮田 (二七六五) 二十二月附 横空 附

遠理 附 九二九

通一四四八九 呂一B (七五〇五KG) 二A 附口

海軍

640

九二八

受信二二〇七二九時了〇一一二 電一二八九〇

官房
一令
人事
事務

緊急

親要

東京 通

三

一

通



機密第二八一九三〇番電



發 南西方面艦隊參謀長

宛 人 幕 局長

通報 大海參一部長

マニラ周邊防空指揮及護衛關係強化ノ爲左ノ通報令方組取計相

成度

千早(二六五三) 南西方面艦隊第十三航空艦隊兼第三南遣艦隊參謀

伊藤(三二九七) 南西方面艦隊兼第三十一特別根據地隊司令部附

通一四七三四

三三〇(三四)七四六五〇(三一)通

海



電信
十部

641

進而第四南遣艦隊ノ現状ハ恭條一名ノ波員差支ナキモノト觀ノア
 右實現ノ聯合艦司令部長事務分擔案在ノ通
 内田(地上作戰全般)久住(通信情報)山本(海上護衛甲)千早(防
 備)顯田(海上護衛乙)向伊藤ハ主トシテ兼務應ニ於テマニテ地區防
 空指揮官トシテ勤務兼テG E Pノ防空策定ノ現地指導ニ任ス。

恭條
十郎

0947

九三〇

受信
開始

〇〇五二三
〇七三〇

譯丁 〇五四〇

電一三二五四・一三一九九
一三三九七・一三三九八

B作・6△



東京海軍通信隊・海上護衛總部隊・菲島部隊(HILB)
南西方面艦隊各口
聯合艦隊口・第二艦隊口・各領守府・各警備府

機密第二九一一四三番電 其ノ二三三四

發 三ノ下參謀長

通報 大海參一部・海上護衛總部隊指揮官

戰訓速報

今茲比島方面敵機動部隊來襲ノ際敵ノ主攻目標ハ航空基地及船渠ニ
指向セラレ「マニラ」「セブ」等主攻目標地區ヨリ七〇乃至一五〇哩ヲ
離隔海邊中ノ船舶ヲ敵大編隊ノ攻撃ヲ受ケ大部分ヲ没セリ

通一三三二八・一三三九四
一三三九二・一三三九八 天日・ヲ九一八八四(K)三二通放

642

右被害船舶ハ總テ陸岸接航中ノモノナルモ當時外洋航行中ノ船舶ナク
敵機ガ外洋ヲ搜索セル事實ハ不明ナルモ避退ノ爲ニハ八節船團ニテ最
少限空襲前一五時間ヲ要ス

一「マニラ」在泊中ノ船舶中防空火器ノ掩護下ニアリタルモノ實ニ被害
少ク、遠ク港外ニ在泊又ハ航行回避運動中ノ艦船ハ被害多シ

三「コロロン」灣ニ對スル空襲ハ敵機動部隊最大攻撃距離ナリシモノノ如
ク敵航空母艦ハ「サンベルナルデノ」海峡至近進出攻撃後「コロロン」
灣攻撃時間約十分間途「カタンダネス」見張所附近ニ於テ不時着
チスル艦上機二機ヲ目撃セル外同夜落乗員搜索中ラシキ敵電波ヲ聴知
セリ、敵機「コロロン」灣攻撃ハ假泊途中敵潛ニ依ル被發見、在泊艦
船ノ電波輻射聴報、敵大型機ノ偵察等ニ依リ敵ニ所在ヲ聴知サレシモ
ノト判斷セラル、敵ノ偵察在泊船舶ノ長時間電波輻射等ヲ知り得タ場
合ハ直ニ報告スルト共ニ泊地變更ヲ要ス

四 船泊ノ避退ハ左ニ據ルヲ可ト體ム

(イ) 敵空襲近キ場合極力陸岸（兩岸高キ山アル箇所ヲ可トス）淺水所ニ
接近碇泊ス

(ロ) 敵空襲豫想地點及同地點ト敵空母トノ連絡結線ヨリ極力遠ザカル
行動現在程度ノ敵機動部隊ノ能力ヲ以テシテハ一七〇〇以後ハ空襲

ノ算少キヲ以テ避退ノ場合ハ一七〇〇以後可ナリ、速ニ行動ヲ起ス
ヲ要ス

海長	
一課長	
A	
B	
受信	
始	
六五	
三五	
〇〇	
〇〇	
D	

緊急

機務

鹿屋航空基地

七二〇 電一三〇八一
一三〇八〇 航本・戦力

作

航本總務部

大海參一部・大阪通信隊・聯合艦隊口・三四一空

機密第二九一二四〇番電

二分ノ一二

發 第二航空艦隊參謀長

通報川西監督官・三四一空

紫電ハ捷號作戰ニ關係シ十月中旬實動一〇〇機ノ準備ヲ促進中ノ所機
 体ノ現状ヨリ九月分受入未済機二九機ノ外更ニ八〇機ノ供給ヲ要ス尙
 在鳴尾新機材ノ情況竝ニ要望左ノ通ニ付右實施ニ關シ至急手配ヲ得度
 一在鳴尾水害機一三〇機中今月空輸可能ノ見込機一五機(目下空輸員
 派遣中)

通一五〇九三・一五〇八九 留一Bラ八 (七五〇五K) 二A F

二十月生産見込約五〇機（會社言）ト關聯水害機一五機ノ緊急整備
促進ニ努ツツアリ尙部隊ハ進出準備ノ關係上水害機應急處置整備員
ノ派遣困難ナリ。

人

作

九	九	九	九	九	九
A	L	K	丁	三	五
B	丁	三	五	五	五
J	三	五	五	五	五
G	三	五	五	五	五

聯合艦隊口・一〇通・三一通
東 道

機密第二九一七二五番電

發 第九特別根據地隊司令官

定 第一南遣艦隊司令長官・南西方面艦隊司令長官

通報 大本營海軍參謀部第一部長

近衛二師團トノ現地協定ニ依ル「サバン」島防衛陸軍兵力左記ノ通報

更ノコトニ決定セリ

一兵力 大隊長ノ率キル歩兵二個中隊・二個小隊・工兵一個小隊（從

來一個中隊）

二進出時機 十月十日頃。

編一五二二七 呂二〇三十四（四七四五）十道

作・△

645



九三〇 陸軍 給信 一五〇四 丁一〇二五〇 電〇〇一五四

△作保

支那方面艦隊

● 大連の一部・海上艦隊司令部・廈門・上海

機密第三〇一二二六番電

47

一、當艦隊十月上中旬護衛艦充當計左ノ通
艦隊は作戦艦團一南支行船團加入一宇治 樺 邁 艦 第二十一
掃海艇 第二日作戦参加艦艇ハ安宅 友鶴 第二十三艦掃海艇
二、情況ニ依リ親 友鶴ヲ上旬上海發MM行高速船團ノ護衛等ニ充當
差支ナシ。

(東通註 再送ノ爲遅延)

第一五五七五 呂三B (一四九三〇K) 上陸 海軍

秘
封
印
紙